

研究報告発表予稿集執筆・提出要領

(1) 書式等

提出していただく原稿をそのまま印刷原稿として、予稿集を発行いたします。

予稿集全体の統一を図るため、別紙の**書式見本**，を参考にし、以下により作成願います。

原稿は、A4版サイズで、図表等を含め4頁又は6頁程度の偶数ページで、ワープロ、パソコンで作成して下さい。

原稿は、上下マージン各18mm、左右マージン各15mmの枠内に、文字数48文字、行数42行の2段組（片段23字＋段間2字＋片段23字）で作成して下さい。原稿の上下・左右の記入枠をはみ出さないように願います。

文字の大きさは、原則、10.5ポイントを使用して下さい。なお、補注及び参考文献については、判読できる範囲で文字の大きさを縮小しても構いません（8ポイント程度まで）。

1頁目の1行目は日本語タイトル、3行目日本語著者名、4行目に線を入れて、5行目以降本文とします。所属等は1頁目下部に脚注を設けて記して下さい。連名者の関係等で所属が2つ以上になる場合は、氏名と所属の部分に*、**印をつけて区別して下さい。

(2) 提出期限

原稿は、E-mail または FD・CDなどのメディアでの郵送により、提出先までお送り下さい（郵送の場合は提出日までに到着するよう、期限厳守でお願いいたします）。

なお、提出期限、提出先は、別途、お知らせいたします。

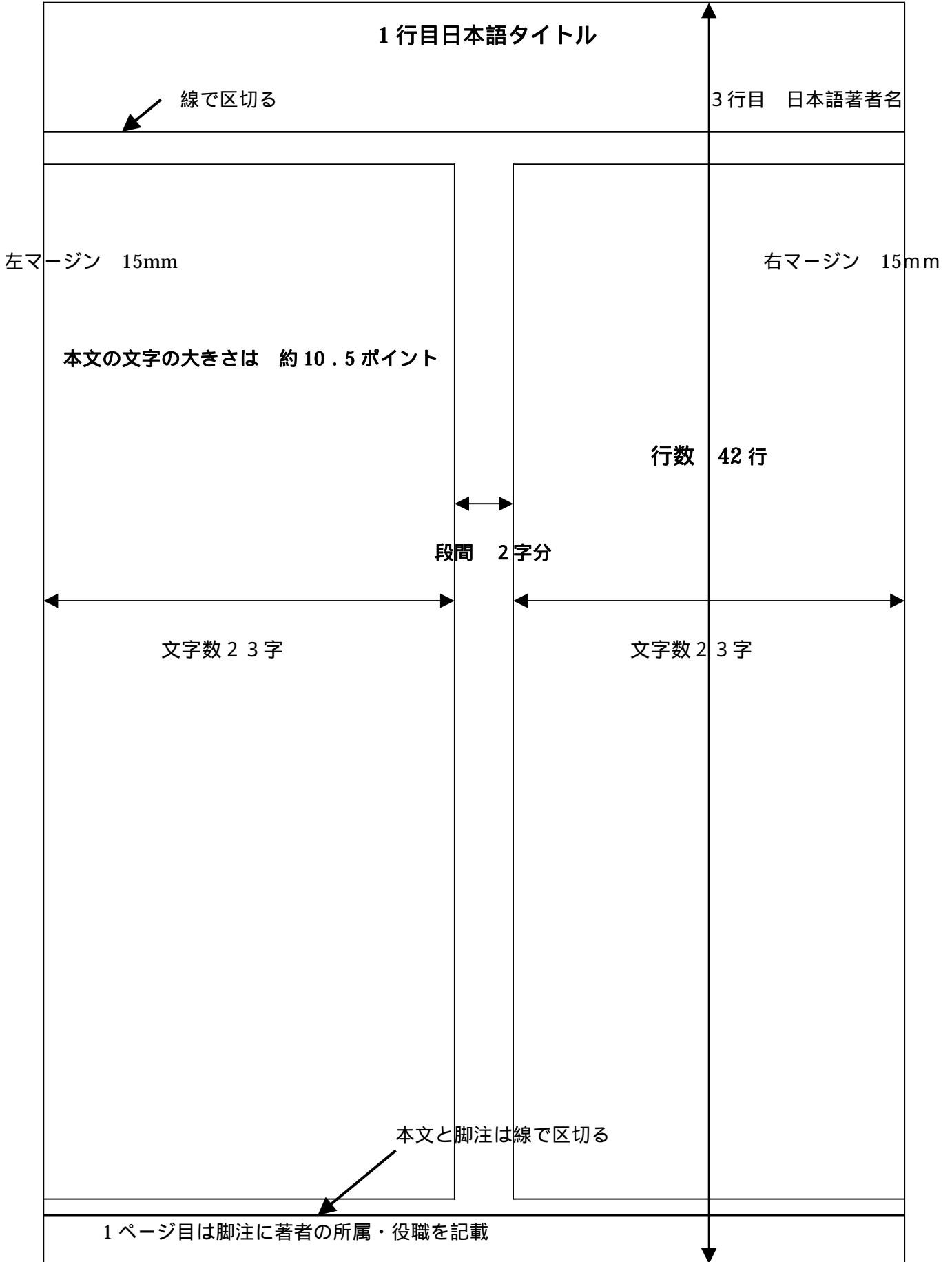
(3) 発表

1論文30分とし、うち、発表20分、質疑応答10分とします。

(4) その他

パワーポイントのファイルを、予稿集の原稿とすることはお控え下さい。発表のプレゼンテーション・ツールとして使用されることは構いません。

なお、パワーポイントの図表等は、別途、席上配布資料とすることにより一層理解が深められますので、お勧めいたします。



1. 本研究の背景と目的

最近、携帯電話はこの5年間爆発的にユーザーが増えている。とりわけ、若者の間ではコミュニケーションの重要なツールとしてなくてはならないものになっている。特に、メールを用いたコミュニケーションは若者間では盛んに行われ、友人関係の維持に、そして心の安定に有効な役割を果たしているように思われる。本稿の目的は、携帯によるコミュニケーションの実態を調査することによって、携帯電話が友人関係の維持やユーザーの気分の変化にどのような効果を及ぼしているかを明らかにすることである。

(3) 結果

(4) 考察

2. 携帯電話使用の実態

4. まとめ

3. 調査：携帯電話の心的機能

(1) 目的

(2) 方法

* 正会員 本州大学工学部人間工学科 教授

** 福島産業大学工学部電気工学科 助手